

一発
合格

堀 敬香 さん

TAC受講歴

- 1年本科生 通信
- 真夏の松宮ゼミ
- 民法トータルパック 通信

本試験の成績

【短答本試験】	
平成30年度……	50点
【論文本試験】	
特・実……………	132点
意匠……………	51点
商標……………	64点
合計……………	247点
民法……………	97点

一発
合格

真田 都子 さん

TAC受講歴

- 8ヵ月本科生 通学
- 短期集中特訓松宮ゼミ

本試験の成績

【短答本試験】	
平成30年度……	45点
【論文本試験】	
特・実……………	109点
意匠……………	56点
商標……………	55点
合計……………	220点

🔍 それでは、合格者座談会を始めます。本日お越しいただいた4名の方、

堀さん、真田さん、原さん、高橋さんです。

司会は、松宮ゼミをご担当されている松宮先生と、

新宿校でご担当されている齋藤先生です。

松宮：堀さんと真田さんは一発合格です。受験回数1回でこの試験を受ける人は非常に少ない。それから原さんは2回で合格、高橋さんも2回で合格ですけど、高橋さん、50代男性です。50代男性が2回で合格するというのは極めて少ないです。今年50代男性は700人受けて合格したのは20人です。非常に少ないですね。それぞれの方に特徴がありますので、それに沿って進めたいと思います。

学習
方法

最短合格の秘訣

🔍 まず皆さんにどうやってこの1年間勉強したかをお伺いします。

松宮：まず真田さん、8ヵ月という超短期で合格という素晴らしい偉業を達成されましたが、1年間どのように勉強されましたか？

真田：TACの8ヵ月本科生を申し込んで、齋藤先生にどうやって勉強したらいいですかというのを随時伺い、教えていただいたまま、素直に勉強したと思います。

松宮：それ重要ですね。

齋藤：講義後に、毎回質問されていました。

松宮：その話はまた後で詳しくお伺いします。では、堀さん。他の方は主に校舎に通われていましたけど、堀さんは通信で、直接先生の顔を見て講義を受けるのではなく、パソコンの画面を通じての受講でした。とても大変だったと思うのですが、1年で合格した秘訣は何でしょうか？

堀：何でしょう？ 必死にやる（笑）。

松宮：通信ですと大変ではなかったですか？

堀：通信だから大変というのは特に感じませんでした。自宅と校舎を往復しな

くて済みますから。

松宮：でもご自分でスケジュールを管理しなくてはいけないですよね？

堀：管理といっても週1回講義がありますから、管理しなくても管理されてるといふ…。

松宮：ちゃんとサボらないでできるわけですね。

原さんと高橋さんは2回目で合格ですけど、私がお二人に会ったのは1年目の試験が終わった夏ぐらいでしたね。お二人に共通しているのは、1年目にそれなりの基礎力を身につけていました。原さんは1年目どのような勉強をされましたか？

原：1年目はとにかく齋藤先生の講義を受けて言われたことを実行しました。短答をただ〇×だけではなくて、自分で論文を書けるぐらいに解答を考え、過去問3年分ぐらい実施しました。その学習法が結構、知識定着には役立ったかなと思っています。短答の解法はそれで身についたのかなという感じです。

松宮：原さんは齋藤先生の講義でしっかり基礎力を身につけて、2年目一緒にゼミで学習しましたが、2年目はインプットに関してはほぼ完成された状態でしたよね。

原：自分としても、知識が足りずに1年目に落ちたという感じはなくて、アウトプットが問題だろうと感じていました。アウトプットになるとゼミに参加するのがいいなと思って、2年目はアウトプット中心で、インプットは少しブラッシュアップするぐらいのイメージでした。

松宮：では、最後に50代男性の高橋さん。高橋さんも1年目の短答試験で合格点は超えましたよね。だけど残念ながら条約で合格基準点不足になってしまいました。1年間学習してきて手応えというのはかなり感じましたか？

高橋：いや、正直、あまり感じませんでした。弁理士試験なんたるやみたいのを、よく分かってなかったような気がします。

松宮：短答に落ちて、2年目に向けてどのように勉強されましたか？

高橋：まずは、条約は合格基準点不足だったので、その短答試験の翌日から、新しく四法対照条文を買い、まずはPCTから早速読み始めました。

松宮：短答試験が終わった翌日から苦手科目を勉強したということですね。

し、見事合格した
験談をお伝えします！



司会

TAC弁理士講座 担当講師
松宮 一也 講師



司会

TAC弁理士講座 担当講師
齋藤 晶子 講師



原 知弘 さん

TAC受講歴

- 松宮ゼミ
- 民法的中セット

本試験の成績

【短答本試験】

平成29年度……44点

【論文本試験】

特・実……………105点

意匠……………52点

商標……………60点

合計……………217点

民法……………97点



高橋 真吾 さん

TAC受講歴

- 上級本科生Fast 通信
- 松宮ゼミ
- 短期集中特訓松宮ゼミ
- 真夏の松宮ゼミ

本試験の成績

【短答本試験】

平成30年度……45点

【論文本試験】

特・実……………117点

意匠……………57点

商標……………56点

合計……………230点

講師

疑問や不安はすぐに解消！

では次に、TACの講師について伺いたいと思います。

松宮：原さん、眞田さんは、ほぼ齋藤先生オンリー。それから、堀さんは小松先生オンリー。高橋さんは齋藤先生がメインで、途中お仕事の関係とかで出席できない時は小松先生の講義も受けられていました。

眞田さんが齋藤先生を選ばれた理由を教えてくださいませんか？

眞田：8ヵ月本科生をご担当されていたのと、新宿校が近かったからです。受講する前に齋藤先生の講義動画をホームページで拝見し、「この先生にずっとついていきたい！」と思ったのがきっかけです。

松宮：実際に受講されて、どこがよかったですか？

眞田：毎回たくさん質問をさせていただきましたが、真摯につきあってくださって、お答えくださいました。また毎回講義の前に15分間、問答してくださっていたので、来週の問答で答えられるようにしようと思って勉強したのがすごくよかったですね。

松宮：8ヵ月本科生は、日程的にもすごく厳しいと思います。8ヵ月だからこうしなさいという話は齋藤先生からありましたか？

眞田：ありましたっけ？

齋藤：思う通り進んでください、TACを信じてくださいって。このカリキュラムに乗かって、他のものに手を出さないよう、余計なことをしないでくださいと言いましたね。

松宮：原さんも齋藤先生ですね。齋藤先生の講義を受けてよかったところは何ですか？

原：毎回真摯に対応していただいて、曖昧だと思ったところを次の週にはフォローしてくれたり、質問が多かったところは資料を作って皆さんにフィードバックしてくれたり、そのようなところはありがたかったと思います。

松宮：堀さんは、ほぼ小松先生一辺倒ですよ。なぜ選ばれたのですか？

堀：私は、通信しか選択肢がありませんでした。ちょうど授乳していた期間で、

5時間家を空けるのは絶対できなかったため、必然的に通信になり、小松先生になりました。

松宮：堀さんは、小さいお子さんがいらっしゃる中で勉強して、一発合格したというすごい方です。例えば通学講座では、自分が分からなければ、質問することができませんが、通信だと疑問があった時はどうしたのですか？

堀：質問メールしました。

松宮：なるほど。質問メール制度がありますよね。それをフル活用したのですね。

堀：フル活用しました。

松宮：生講義を受けていた眞田さんも質問魔でしたね。

眞田：はい、そうです。

松宮：堀さんもそうですが、分からなかったことをそのままにせず、すぐ聞くというのはいいことですよね。

齋藤：今思い返すと、眞田さん、原さん、高橋さん3人もすごかったです。

松宮：原さんは、私がたまに齋藤先生の講義を聞きに行くのと、講義が終わると必ず質問していましたね。とても印象的でした。自分で何か決めていたのですか？

原：決めていました。講義後に1個は必ず質問しようと決めて聞くと、自分は本当に理解できているのかを考えながら講義を聞くようになります。やはり集中力も高まるし、自分自身の集中力を高めるためにそう決めて受けていました。

松宮：それは講義の受け方がいいですね。

原：そうですね。そういう意識を持って聞くというのは、集中力を高める動機づけにはなるかなと思いました。

松宮：素晴らしいですね。高橋さんはいかがですか？

高橋：そこができていなかったから、多分、1年目は短答に受からなかったのでしょうね。

松宮：高橋さんは、質問は多かったですか？

齋藤：多くはないのですが、たまにすごい質問が来たのを覚えています。「高橋さん、来た！」みたいな。

松宮：核心を突く…。

原：自分もそばで聞いていて、核心を突く質問をしているなと思いました。

ではその次、テキストの話をしましょう。

今、皆さんのお手元にいろんなテキストが置いてありますが、

今日は自分が使ったテキストで

一番重要だと思うものを持ってきていただきました。

齋藤：原さんは短答⇔論文ハイブリッド講義のテキスト、眞田さんは論理解法マスター講義の補助レジュメ、堀さんは短答の過去問ですね。高橋さんも短答⇔論文ハイブリッド講義のテキストです。まず、堀さんにお伺いしたいのですが、短答の過去問をどのように使いましたか？

堀：TACのカリキュラムは、3月の終わりぐらいから1年本科生の講義が始まります。4～5月は月に2回ぐらいしかなかったと思います。何もわからないのですが、最初に過去問をいただいたので、2冊いきなり始めて、その後短答⇔論文ハイブリッド講義テキストが来て、こっちに乗り換えて、またこっちにいつてという感じでした。

齋藤：短答過去問は、回数とか、何年分とか含めて、どれぐらい解きましたか？

堀：条約は10年分やりました。商標は5年分、何回やったかは分からないぐらいやりました。

齋藤：ちょっと見せていただけますか。これ、ボロボロですね。

堀：性格的な問題があるのかもしれませんが。

齋藤：重要なところはきちんと印をつけたりしていますね。

堀：間違ったところでですね。

齋藤：問題を解いて、その後どのような復習をしましたか？例えば、問題を解き、○か×か分かりますね。その先は具体的に何をされましたか？

堀：小松先生がいつも○か×かではなくて、根拠の条文を考えなさいとおっしゃっていました。そこで根拠条文を確認したり、該当箇所のテキストを見たりしました。

齋藤：小松先生の指示通り学習したのですね。

堀：そうですね。

齋藤：素晴らしいですね。1年間の学習で短答50点。60点満点の短答式試

験：受けてみていかがでした？これなら、大丈夫だと思いながら解きましたか？

堀：大丈夫だとは思わなかったですけど、なんか、もう、燃えていましたね（笑）。

齋藤：それは重要ですね。ポジティブに受けるって合格するにはとても重要です。原さんはこの短答⇔論文ハイブリッドテキストをどのように使いましたか？

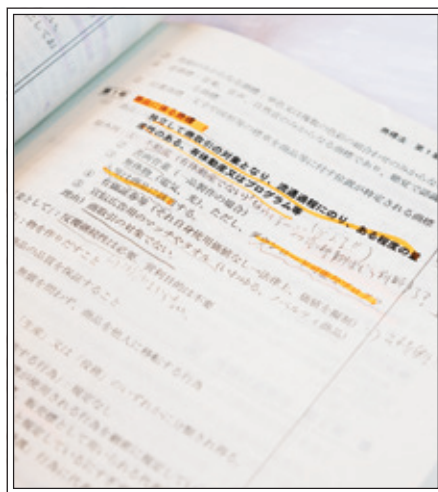
原：そうですね、1年目は素直に読むのと、分からないところを質問すること意識して活用しました。2年目は、実際に受けてみて、知識としてはこれをやれば十分だろうというのが頭にありましたので、アウトプット中心にしようと思い、自分の完成度を上げていくという意味で、もう1回復習のために見返していました。このテキストで学習していると短答と論文の過去問にいつも出題されている論点が目で見えますので、そこは重視しました。短答の知識では、免除ではない方には、負けたくはないので、短答もできるように勉強していました。

齋藤：そうですね。短答の勉強をしている時にパッと見て、その問題、その分野が論文でも出題されているんだというのが一目で分かると、もちろん短答を通らなければ論文を受けられないのですが、勉強していく上では短答のテキストと論文のテキストが1つになっているっていうのは…。

原：勉強しやすいと思います。

齋藤：ちなみに、原さんはこれ、どのぐらい使いましたか？ワッ！いっぱい書いてある！

原：テキストよりは条文集にどっちかっていうと書き込んで、読んでいたのは条文集の方です。1回テキストを読



“「短答」・「論文」の情報の

験（合格点は39点）で、50点取れるというのは合格者の中でもトップの5%ぐらいです。1年間でやって50点というのはすごいですね。

堀：結果的にはそうですね。

齋藤：答練はご受講されていましたか？

堀：受けていました。

齋藤：点数はいかがでしたか？

堀：よかったです。

齋藤：では、答練を受けるころには知識は固まっていたということですね。

堀：正直なところ、本試験って違うじゃないですか。答練で点が取れたからって本試験で絶対取れるとは限らないから、そこだけ

は、すごい気をつけようと常に思っていました。それが一番不安だったので。

齋藤：不安でしたか。そうですね。短答本試験は緊張しましたか？

堀：緊張はしなかったです。



高橋さんの重要教材

短答⇔論文
ハイブリッド講義
テキスト

んで印を付けたところを、条文集に書き込んで読むみたいな勉強をしていました。その条文集を作るために主にテキストを使っていました。

齋藤：そうですか。分かりました。ありがとうございます。

では、高橋さんは短答⇔論文ハイブリッドテキストはどのように使いましたか？

高橋：基本は復習ですね。音声を聞きながら復習…。1年目の短答が終わった後にすぐインプットを始めたんですが、大体2回ぐらい回しました。下に日付が書いてあります。

齋藤：本当ですね。すごいですよ！これ、ところどころ貼ってありますよね、別紙とかって。

高橋：自分で作りました。

齋藤：ありがとうございます。では、真田さん。真田さんは持ってきていただいたのが、論文解法マスター講義の補助レジュメですね。真田さんの場合は学習期間が8ヵ月なので、そもそも勉強時間がすごく短かったですよね？

真田：はい。

齋藤：そうすると、論文の勉強って尚更、時間が少ないですね。そういう中でこのテキストを使ってどのような勉強をしましたか？

真田：私も基本はこの短答⇔論文ハイブリッドテキストと、短答に向けては過去問だったのですが、カリキュラムの都合上、ハイブリッド講義を受けている途中で、もう論文の答練が始まるって…。

齋藤：過酷でしたよね！

真田：はい、過酷なスケジュールで。商標をまったく習ってないのに商標の論文を書くみたいな、カリキュラムでした。インプットが終わってない時に論文のアウトプットが始まるので、条文集だけ見ても絶対に書けないと思っていた

ので、解答時間は守った上で、ハイブリッドテキストとこの補助レジュメを見ながら最初、答案を書きました。この補助レジュメは、主旨とか判例の本当に重要なものをコンパクトにまとめた冊子だったので、基本的に重要なのはここに掲載されています。問題文を読んで、「ここが聞かれているな」ということを確認した後、調べて最初は写すだけになってしまったんですけど、重要なのは繰り返し繰り返し過去問や答練で出題されるので、書いているうちに何となく覚えてというのがありました。あとは、ハイブリッドテキストを持ち歩きたいんですけど、重過ぎるので。電車の中とか移動中は基本的にこの補助レジュメを見て勉強していました。

齋藤：ポロボロです！

真田：本当に持ち歩き用みたいな感じでした。

齋藤：ちゃんと重要なところを自分で線を引いたり、付箋を付けたりして、書き込みもしていますね。とても原形を留めないくらいすごいですね。

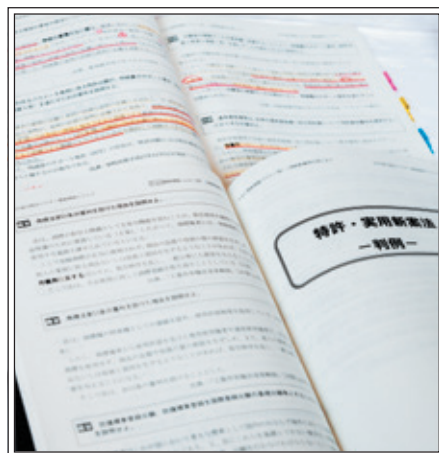
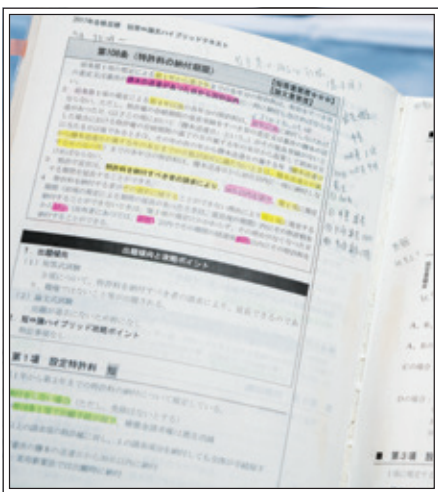
真田：薄い冊子なので、本番前の前日にザッと読めるぐらいの感じですよ。前日にまだ知識として入っていないと思う箇所を赤ペンで引いた結果、こんなことになってしまっ

て。結局、全然入っていないということが前日にわかったんですけど。

齋藤：こうやってポロボロになるまで一冊のテキストを使うというのは…。

真田：1年でと思っていたので、もう来年までこれを使うことはないって、何となく追い込む意味でも今年だけでポロボロにしようみたいなものがありました。

齋藤：短期で受かる人って、1つのテキストを、使い込む方が多いですね。



一元化が合格のカギ！”



では、今度、答練について伺います。

答練は短答と論文とそれぞれあるので、分けて聞いていきます。

松宮：まず真田さん、真田さんは短答の答練は、どのように活用しました？

真田：まず問題を解いている時に○×だけではなくて、知識として怪しいなと思うものに全部印を付けておいて、後で正誤に関係なく怪しいなと思ったところを復習するようにしていました。

松宮：復習って、すごく時間がかかりませんか？

真田：かかりましたね。ですので、答練があった時はその復習で1週間が終わった気がします。ひとつひとつの枝について条文というか、ハイブリッドテキストの該当する箇所を読んで、関連する条文を読んでという勉強をしていたので、1週間アツという間でしたね。

松宮：答練で脱落してしまう人がいるんですけど、結局、復習できなくて、復習が1週間の間にできないうちに次の答練がドンドンドン来ちゃうと追いつ

約で落ちた年は、短答の答練は受けましたか？

高橋：受けていました。

松宮：点数はどうでしたか？

高橋：その時はいわゆる合格基準点まで到達したことは、数えるくらいしなかったですね。

松宮：2年目は短答の答練、受けました？

高橋：受けました。

松宮：どうでした？

高橋：まあ、大体、合格基準点を超えていましたね。

松宮：模試はどうでした？

高橋：模試は、1回目は50点を確か超えたと思いますけど。2回目、3回目も45点か、46点ぐらいです。

松宮：高橋さんから見て短答の答練や模試って、どのように活用したいと思います？

高橋：やっぱり弱点というか、分からなかったところのチェックに使うのが一番



“答練や模試は、点数・順位

いていけないし、新しいところで点数を取れないでという、それで脱落する人がいるんですけど、ちゃんと全部ついていったのはすごいと思います。

真田：ありがとうございます。

松宮：自分でやって段々点が伸びてきたという実感はありました？

真田：ありました。最初は本当にできていないので。ただ、模試を受ける頃には45点前後まで伸びました。答練は、最初全然ダメだったんですけど、そのような復習をしているうちに点数が上がってくる実感はあったので、そういう意味では割と楽しく勉強できました。

松宮：楽しかった？ 素晴らしい！ 高橋さん、いかがですか？ 短答の答練と模試は？

高橋：復習はしましたが、あまり時間をかけなかったですね。まあ、やっていることは、多分、真田さんと一緒ですけど、軽く流していたんですね。

松宮：短答本試験は2回受けられていますよね。1年目、39点だったけど条

いいと思うんですね。例えば、29条の2とか、4条とか、よく出る論点は皆さん、多分、勉強されていると思うので、それ以外のところで穴があればチェックしていくという感じですね。

松宮：短答の答練って、予習前提でやる人と予習しないで復習だけでやる人と2タイプいると思うのですが、高橋さんはどちらですか？

高橋：予習はしなかったですね。短答の答練のための予習はしなかったです。

松宮：分かりました。真田さんは？

真田：予習の余裕はなかったです。復習一本でした。

松宮：分かりました。齋藤先生は短答の答練はどのように受けてくださいという指示はしているのですか？

齋藤：高得点を取るために、答練を受けて、ダメだったらもう1回復習してくださいという感じでしたね。

松宮：堀さん、論文の答練と模試についてお伺いしたいのですが、講義は



通信で受けられましたよね。答練はどうしましたか？

堀：答練は短答が午前で、午後が論文だったので、まずは午前中だと思って、午前中だけ短答の答練を会場に行ってやって、論文の答練は、朝、家でやって、最後の模試は全部会場で行いました。

松宮：答練や模試は、通信の方は家で解かなくてはいけないのですが、教室で解くのと違いますか？ 雰囲気は？ それともあまり変わらないですか？

堀：まず基本的に論文の答練は嫌だったので、家だろうが会場だろうが緊張していました。家だと自分しかいないのですが、会場だといろんな人がいて、「うわ〜」みたいな感じで圧倒されたので、1回は絶対行った方がいいなって思いました。

松宮：堀さんは論文の答練は予習をして受けましたか？ それとも復習中心ですか？

堀：両方やったかなって思いました。

松宮：では、論文答練を受けるにあたって、予習はどういうことをやりました？

堀：ただ単にその範囲のテキストを見直す。条文を見ていました。

松宮：復習は？



ではなく自己分析が重要！”

堀：復習は、書けなかったところがなぜ書けなかったのだろうとか、例えば分割だったらいつも私は審査請求を落とすとか、そういうのを見たり、あとは参考答案に選ばれた方の論文を読んでみたり、講評を読んで、ここを書けなかった人が多かったから書いてくださいとか書いてあるのを参考に、覚えていってということをやりました。

松宮：答練や模試を受けて一番よかったことは何ですか？

堀：模試は、1日で3科目解くってことがすごくキツイので、講義の中で小松先生が「意匠から商標の間に何か注入しましょう」みたいなことをおっしゃっていました。それをぶっつけ本番でやると失敗するかもしれないので、本当に効くかどうかを試すように、私はアミノ酸のサプリを飲むっていうのを試しました(笑)。

松宮：飲んだ!? 効果、ありましたか？

堀：よく分からなかったです(笑)。商標が終わった時はやっぱり疲れました。だけど、経験しておくのはよかったかなって。

松宮：原さんは論文の答練はどのように活用しましたか？

原：論文の答練というのは、本試験とは全然違うものだと思います。そういう点で本試験対策というよりは、自分が論点、大項目を挙げられたか、大項目を挙げられなかったとしたら、なぜ挙げられなかったのか、そのような確認であって、順位とかは一切気にしませんでした。あくまで大項目を挙げられたか、そこが、多分、一番重要だと思います。過去問だけだと限りがあるので、答練で、新しい自分の失敗パターンとかを見つかるために活用させていただきました。

松宮：うん。いいと思いますよ。答練を受けて点数と順位にこだわり過ぎちゃう人って、得てして合格が遠くなりますよね。それよりはその答練を通じて自分が何ができて、何ができなかったということを分析する方が遥かに合格に近くなりますね。齋藤先生、その辺りは何か指導されていますか？

齋藤：それは常に言っていますね。本番の点数とは全然違うから、自分の今の状態だけだし、これは何がダメだったか確認するためだから、点数も順位とかも一切関係ないので、緊張しないでくださいって。

でも分かる通り、すごくまとまっていたんです。すごく結束力が高くって雰囲気がよかったですけど、原さんは、正直言って、松宮ゼミはどうでしたか？

原：本当、楽しく勉強できて、ステキな仲間がいっぱいいて、お互い刺激にもなったし、お互い質問したり、高め合って、一緒にチームになって、合格に向かっていけたというのはすごく良かったです。

松宮：中学校のクラスみたいなものですね。真田さんはいかがですか？

真田：本当に雰囲気に関しては最高でしたね。私、論文発表から口述に向けて一番ピンチで…。秋から、松宮ゼミで一緒にやっていらっしゃる方の中に入れていただいたのですが、皆さん、本当に温かく迎え入れてくださって、一緒に頑張ろうとやってくださったので、ありがたかったですね。

松宮：口述、良いメンバーが揃いましたよね。

真田：本当にありがたかったです。

松宮：論文発表の時に、真田さんはちょっと口述まずいのはって思うぐらいだったんですよね。どうしようってね。ご事情で、夏、勉強できなかったですよね。

真田：論文をあまりやりたくなくて、3か月勉強から離れてしまったのですけど。合格発表の掲示板を見て嬉しい反面、松宮先生に、思わず「どうしよう？」って。その日から松宮ゼミのメンバーと一緒に勉強させていただいて本当にありがたかった。本当に薬にもする思いでした。ピンチな人には優しいですね(笑)。

松宮：それは言えます。よく分かります(笑)。堀さんは夏ゼミで一緒にしたけど、松宮ゼミ、いかがでした？

堀：楽しかったです。すごい明るく、優しく迎え入れてもらって。夏の間から原さんとか、一緒に練習してきましたけど、すごい刺激になって良かったです。

松宮：他の人って、参考になりました？

堀：なりました。やっぱりすごい分かりやすくコンパクトにしゃべる人や、いろいろ答え方があるので参考になりました。

松宮：なるほど、ありがとうございます。高橋さんは今年の松宮ゼミのムードメーカーですよ(笑)。

高橋：いいえ、違いますよ(笑)。

松宮：今年、松宮ゼミの雰囲気がすごくよかったのは、高橋さんという、ある程度社会経験が豊富で、みんなのことをうまく持ち上げて。そういう人がいたから。いかがでしたか？

高橋：褒め過ぎでございます。本当に楽しくやらせていただきました。ありがとうございます。大変お世話になりました。

松宮
ゼミ

最高の仲間と学習環境



さて、そろそろ終盤にさしかかって来ましたが、

皆さんに、松宮ゼミについて聞いてみたいと思います。

松宮：今年の松宮ゼミって論文発表から口述までの、あの怒涛の3週間を見

2018年度
弁理士

合格への軌跡

弁理士受験生へのメッセージ

最後にそれぞれの方に、合格を目指す人、それから、これから勉強して初めて試験を受ける人のために、TACをどのように活用したらいいかというのを伺いたいと思います。

齋藤：まず、堀さん、お願いします。

堀：払ったお金を全部取り戻すぐらいに質問する。分からないところを放っておかない。使える制度は全部使うですね。

齋藤：使える制度は全部使うですね。ちなみに、自習室は使いました？

堀：自習室はたまに…。

齋藤：一番使ったのは質問メールですね？

堀：スクーリングもちょっと使いましたが、やはり質問メールですね。

齋藤：高橋さん、来年受ける人のために一言お願いします。

高橋：TACの活用ですか？ やっぱ元を取る。自分は自習室と、一応、通信を取って、でも生講義も受講していました。だから、使えるものは何でも使うっていうのがいいと思います。

齋藤：自習室は、随分、使いましたか？

高橋：使いましたね。

齋藤：どのぐらいですか？

高橋：毎週土日の講義を受けている以外は、多分、TACにいたと思います。

齋藤：素晴らしいです！これから、TACに来れなくなってさみしいですね。

高橋：さみしいです。

齋藤：眞田さんはいかがですか？ 8ヵ月合格を目指している方もいると思いますが、その方たちに対してアドバイスをお願いします。

眞田：不安になると、いろいろな講義を受けた方がいいかなとか、このテキストもあれもこれもという気持ちになる

かなと思いますが、そこはもうTACを信じてほしいです。満点を取らなくても受かる試験なので、必要最低限にしばって、先生に自分に今、必要なのは何ですかと聞いて…。TACの先生方のありがたいところは、ムダにいろいろ薦めてはこなくて、これをやっていれば大丈夫だというのを厳選して教えてくださるので、それを信じてやっていれば大丈夫です。

齋藤：とても素晴らしいです。原さん、最後にお願いします。

原：正しい努力をしていけば、きっと、頭のよさを問う試験ではないと思います。正しい努力さえすれば受かる試験だと実際受験してみて思いました。TACの講師の方はノウハウがあり、効率良く勉強する方法を教えてくださいますので、素直に信じてやってみて、疑問に思ったら質問してみればいいと思います。

齋藤：そうですね。ありがとうございます。カッコよく最後、まとめられました。さて、そろそろ時間が近づいてしまいました。皆さん、本当に合格おめでとうございます。そして、お忙しいところ、ありがとうございました。これからの皆さんのご活躍を祈念しています。

次はあなたの番です！
TACと自分を信じて
頑張ってください！

資料のご請求・お問い合わせは

弁理士講座のパンフレットのご請求・お問い合わせはこちらから

通話無料

0120-509-117

受付
時間

月～金 / 9:30～19:00
土・日・祝 / 9:30～18:00

TAC ホームページからのご請求

<https://www.tac-school.co.jp>

TAC 弁理士

検索

資格の学校
TAC

W セミナー
WASEDA

WセミナーはTACのブランドです。

TAC

公認会計士 / 税理士 / 簿記検定 / 社会保険労務士 / 中小企業診断士 / 証券アナリスト / ファイナンシャル・プランナー / 不動産鑑定士 / 宅地建物取引士 / 建築士 / マンション管理士・管理業務主任者 / 公務員(地方上級・市役所・国家一般職) / 公務員(技術職) / 教員採用試験 / 警察官・消防官 / 行政書士 / 通関士 / 弁理士 / 知的財産管理技能検定® / 米国公認会計士 / 公認内部監査人(CIA) / 情報処理技術者 / パソコンスクール / CompTIA / ビジネスプロ養成スクール / 医療事務(医科・歯科)

W セミナー (WセミナーはTACのブランドです)

司法試験 / 司法書士 / 公務員(国家総合職・外務専門職)

218-0102-1007-11